



H17.10.21 1165
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 第57回全国漁港漁場大会開催される

去る10月12日、神戸市のワールド記念ホールで「阪神・淡路大震災復興記念10周年記念」とも位置付けられた、第57回全国漁港漁場大会が、本県から県漁港漁場協会会長(戸本隆雄焼津市長)をはじめ、漁業関係者31人を含め、全国から約2,300人が参加して盛大に開催されました。

大会は、藤原久嗣兵庫県漁港協会理事の開会宣言のあと、坂井淳全国漁港漁場協会会長が主催者を代表して挨拶し、次に岩永峯一農林水産大臣(宮腰光寛副大臣代読)、竹山裕自民党漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長がそれぞれ挨拶をしました。

引き続き、水産関係団体より中須勇雄大日本水産会会長、植村正治全国豊かな海づくり推進協議会会長も祝辞を述べ、井戸敏三兵庫県知事より感謝の言葉が述べられました。

次に大会議事では、正副議長(議長:芝原英三兵庫県漁港協会会長(家島町長)、副議長:佐藤一誠秋田県漁港漁場協会会長(男鹿市町))を選出した後、森武美兵庫県漁協女性部連合会会長より大会アピールが読み上げられ、「漁港漁場整備長期計画並びに社会資本整備重点計画(海岸事業)の着実な推進と次期漁港漁場整備長期計画の策定に関する件」を付議議案として図り、満場一致で採択しました。

この後「感謝の集い」が行われ、丸一芳訓兵庫県漁連会長が植村正治全漁連会長に記念品を贈呈し、阪神・淡路大震災で支援を受けた全国の漁業者に向け改めて謝意を示しました。

第2部では、河田恵昭京都大学防災研究所長(人と防災未来センター長)が「海の災害を考える～津波来襲時の漁業被害を減らす～」をテーマに記念講演が行われました。

2. 静岡のサバ類TAC1万8千トンに 5千トンの追加配分

水産政策審議会の第22回資源管理分科会が農水省で開かれ、今年のサバ類、マアジのTAC(漁獲可能量)について期中見直しを行う「海洋生物資源の保存管理に関する基本計画の検討」が原案どおり承認されました。サバ類は2004年級群の資源量が今年のTACを設定した時点の想定より多く、昨年を大幅に上回る水揚げが続いているため、TAC総量を57万5千トとし、当初の42万6千トから14万9千トン増加しました。

このうち大臣管理分は32万ト(8万2千ト増)、知事管理分は7都県で増枠し、東京2万ト(3千ト増)、静岡1万8千ト(5千ト増)、三重2万5千ト(7千ト増)、和歌山7千ト(2千ト増)、長崎1万ト(2千ト増)、宮崎2万ト(1万1千ト増)、鹿児島1万4千ト(5千ト増)となりました。

マアジは漁場形成によってTACの不足が生じると見込まれる県が出ているため、留保枠からそれらの県に追加配分し、島根3万4千ト(4千ト増)、宮崎6千ト(2千ト増)となりました。

3. 平成16年度海面漁業経営調査公表される

農林水産省大臣官房統計部では10月7日、平成16年度の海面漁業経営調査(雇用型個人

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

経営・会社経営・共同経営)及び内水面養殖業経営調査の結果を公表しました。

それによると、漁船漁業を営む雇用型個人経営の1経営体当たりの漁労利益は91万円(漁労収入7,450万円、漁労支出7,359万円)で、魚価の上昇により漁労収入が前年度に比べ269万円増加したことにより、前年度の赤字から黒字に転じ平成13年度レベルまで回復してきています。

一方会社経営では、1経営体当たりの漁労利益はマイナス1,687万円(漁労収入2億8,442万円、漁労支出3億129万円)で、ほぼ昨年と同様の水準となり厳しい経営実態が浮き彫りとなりました。

ブリ類養殖業を営む雇用型個人経営の1経営体当たりの漁労利益はマイナス865万円、経常利益はマイナス468万円となり、タイ養殖業の漁労利益はマイナス845万円で、海面養殖も厳しい経営状態が伺えます。また、内水面養殖業経営(ウナギ養殖業)の養殖業利益は857万円でした。

4. 水産総合研究センター イメージキャラクターの愛称を募集中

水産総合研究センターでは、親しみあるわかりやすい広報に努める一環として、イメージキャラクター3種類を作成し公表しました。

このイメージキャラクターは水産の対象種のフグとアンコウをイメージし、皆さんにより親しんでいただくことを目的として、キャラクターの愛称を公募したものです。採用された方には賞品としてフグ鍋セットまたはアンコウ鍋セットが進呈されますので、振るってご応募ください。

応募締切:平成17年11月30日 応募方法:イメージキャラクターの3種類について、それぞれの名前を付ける。住所・氏名・電話番号を記載の上、インターネット、ハガキ、ファックスで応募する。

問合せ/応募先:水産総合研究センター Email: www@fra.affrc.go.jp
住所:〒220-6115 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-3 クイーンズタワーB棟15F
FAX: 045-227-2702 URL: <http://www.fra.affrc.go.jp/new/kyara1.html>

5. 新刊図書紹介 「図解・ロープワーク大全 使いたい結びがすぐ分かる」

成山堂書店ではこのほど、「図解・ロープワーク大全 使いたい結びがすぐ分かる」(前島一義著)を刊行しました。

本書は、ロープの達人である著者が、荷物の梱包、古新聞のまとめ方等、日常から登山・釣り・ヨット等のレジャー、緊急時に対応できる結び方などを用途別に分類し、基礎から応用まで約350通りの結び方を、3色刷りの図解でわかりやすく紹介しています。

価格:3,780円(税込) 問合せ先:成山堂書店 TEL:03-3357-5861

6. 諸会議・日程(10月25日(火)～11月7日(月))

- 既報分省略 -

11月1日(火) 県漁船保険組合 = 監事会 (県水産会館)

" 県漁業振興基金 = マダイ稚魚放流協力募金西部地区懇談会 (土肥漁協)

11月2日(水) 県漁業信用基金協会 = 理事会 (県水産会館)

11月4日(金) 県旋網漁業者協会 = 役員会 (静浦漁協)

11月5日(土) 県おさかな普及協議会 = お魚料理コンクール審査会 (鈴木学園)

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう